

# 環境活動報告書発行にあたって



滋賀県立大学生協 理事長

**増田 佳昭**

滋賀県立大学生協は、滋賀県立大学の開学とともに滋賀県立短期大学生協を改組して発足しました。月日の経つのは早いもので、今年度、第13回目の通常総代会を迎えることとなります。当生協は、組合員のニーズ、とりわけ食に対するニーズに応えることを中心に、学生、教職員のキャンパスライフの支援、充実をめざし、組合員のための生協づくり、組合員が関われる生協づくりを進めてきたところです。

当生協は、一時は多額の累積損失を抱えて経営的にきわめて厳しい状況にありましたが、連合会の支援、職員のがんばり、組合員の支持によって、損失を大幅に縮小することができ、ようやく安定した経営軌道に乗りかかっています。今後とも、組合員の期待に応えながら安定した経営ができるよう、ともに頑張っていきたいと思えます。

さて、このたび、2008年度の環境報告書がとりまとめられました。滋賀県立大学生協が誇りとするものはいくつかありますが、その一つが環境活動です。環境マネジメントシステムの運用は長年にわたり、環境マネジメントマニュアルはすでに8版を重ねました。こうした大学生協における環境管理は、滋賀県立大学の環境管理システムにも先行するものでした。こうした活動は、食堂等における電力や水、ゴミ等の削減に大きく貢献しています。また、店舗におけるエコ文具の取り扱いや開発は、生協らしい環境活動として高く評価されています。こうした活動によって、2005年にEMO（環境マネジメント事務所）が第3回大学生環境活動コンテストグランプリ・環境大臣賞を、グリーンコンシューマーサークルが日本環境経営大賞－環境価値創造部門環境連携賞－を受けるなどの栄誉に輝いたことも、大変誇らしいことでした。

本来ならこうした滋賀県立大学生協における活動の成果は、毎年とりまとめられて、公表されることが望ましかったのですが、なかなかできずにいました。このたび、晴れて環境活動報告書が刊行され、生協の環境活動がまとまった形で世に問われることは大変喜ばしいことです。それは、単に活動の成果を社会に問うだけでなく、自らの到達点と課題という足下を見据えることにもつながる、大きな意味があると思えます。

報告書とりまとめに大変な時間を割いて関わってくださったEMOのメンバーに感謝するとともに、環境活動推進に向けての関係者の今後とものご支援、ご努力をお願いしたいと思います。